

「私たちの中におられる主」

～教会という共同体の意味～

「だから、もし他人より自分のほうが獲れている、もしくは価値のある者だという態度でこのパンを食べ、イエス様の杯を飲むような人は、それを受けるのに値しない。さらには、イエス様の体と血の犠牲を汚していることとなる。だから、聖餐する前に、各人が注意深く、自分を反省しなければならない。キリストの体である他の人と比べ、自分のほうが価値あるものと考えてそのままパンを食べ、杯を飲むなら、神の鉄槌を食らうはめになる。だから、あなたがた教会は、弱い者や病人が続出し、多くの死者が出ているのだ。自分をほかの人間より上だと思わなければ、神に見下だされない。けれども、私たちがイエス様にさばかれ、懲らしめられるのは、この世の人たちといっしょに有罪を宣告されないためだ。こういうわけだから、教会のみんな。イエス様の晩餐に集まる時は、みんながそろそろまで待つのだ。」

コリント人への第一の手紙11章27～33節〔アライブ訳〕

第二回目の米朝首脳会議がベトナムのハノイで行われた。その成果はあまり良いものではなかったが、水と油、バックに天敵である中国が控えているような北朝鮮ですから、歩み寄りもそう簡単なことではないでしょう。そんな中であって日本も韓国も微妙な関係の中にあるので、やはりぎくしゃくしている状況です。人間同士の関係も難しいのが私たちですが、まして国家間の関係はさらに容易ではないことは言うまでもありません。

コリントの教会も問題の中にありました。「信仰」というものがあるために、さらに厄介だったのかもしれませんが。教会の中心は「聖餐式」です。“記念として行いなさい”と命じられたとても重要な内容です。この「聖餐式」と「洗礼式」はプロテスタント教会での最も大切な「聖礼典(サクラメント)」と呼ばれるものです。しかし、その最も大切なものが、コリント教会の中で問題の中心になっていました。イエス様が私たちのために死んでくださったということが一体どういう意味を持っているのか？その意味がないがしろになってしまっていたのです。

木曜日のWOGA集会でポーマン・ルリ子先生が「私たちにはイエス様の御名の権威を用いるという特権を与えられている」というメッセージをお聞きました。私たちには偉大なイエス様ご自身の権威が与えられています。ですから、互いに尊敬し合い、互いに励まし合うことができます。聖餐式の一つの大切な意味は「主のご臨在」です。そして、そのご臨在の中で赦しと癒しがなされます。最も大きな癒しは、私たちの心が赦しの心で満ちることです。自分を赦し、隣人を赦すこと。そして、すべての縛られているものから自由にされることです。一つの主の御体によって、私たちは皆一つとされています。主によって一つにさせていただいた私たちはもう決して一人ではありません。たとえ問題があっても、自分で良し悪しを判断するのではなく、主がすべてを解決してくださると信じられるようになるのです。